



【まず、動き出す
やれない理由を探さない
みんな一緒に汗を流す】

Do

—ドゥー—

第2章 実行

動き始めた3つの検討チーム
共に汗を流した地域住民、各種団体…
これまで2年間の活動を経て
形を成していったものがある
いまだ、実現に至っていないものもある
その全てが、協働による活動の「足跡」



1奥大井湖上駅に、井川線の技術者と一緒
に愛の鍵かけモニュメントを設置する2寸
又峡外森神社参道付近にて。以前からあつ
た絵馬かけの横に新しい絵馬かけを追加3
本町・井川地区活性化検討チームでは実際
に井川線に乗りし沿線の課題を探った4寸
又峡外森神社の参道を整備。地元温泉組合、
検討チーム、観光協会、商工会など多くの
人が協力し、手作業で木製階段を設置した。

看板が少なくて困った」と話
す井本宗志さんのように、観
光客に近い目線で地域を見つ
めることもできる。つまり
「観光客が求めるものニーズ」
を知ることもつながるの
だ。この検討会の大きな強
みといつてもいいだろう。
井川線収益向上検討チーム
の佐藤廉リーダーはこんな話
をしてくれた。
「以前よく利用していた旅館
がありました。ひなびた感じ
で気軽に泊まれて重宝してい
たんです。あるときその旅館
が、屋内ゲートボール場を
作ったんですね。雪が降る地
域だったので、冬場は外でプ
レーできないようなんです。
その旅館が現在どうなったか
というところ……。300人収容する
大きなホテルに変身しました。
これは発想力の勝利。ゲート
ボールは外でやるものという
固定観念を覆した結果なん
です。それとニーズを的確につ
かむこと。これも大事なこと
です。冬場だってゲートボー
ルをやりたい人はたくさんい
る。お客さんが今、何を求め
ているかを知ることが第一歩
なんです。」

「実行」に移すことで
価値・効果が生まれる
「思い」があつて、ニーズを
把握したとしても、それを「実
行」に移さなければ、何も生
まれない。逆に言えば、持ち
寄ったアイデアやまとめられ
た提案は「実行」に移すこと
で初めて価値や効果が生まれ
そこから新たな可能性が広
がっていく。
成功したら、それをどう継
続していくか、新たな工夫を
盛り込んでいくか。もし失敗
したら、何が悪かったのか、
何を改善すべきなのか。その
積み重ねによって前に進むこ
とができる。
大井川未来予想図検討会
はこの2年間、内容、役割分担
材料調達、経費、スケジュー
ルなど、地域住民や他団体と
の折衝や意見交換を繰り返し、
その結果を受けて個々の活動
を実践してきた。
それぞれ検討チームによつ
て計画の進み具合には差があ
るものの、どのチームも「今、
自分たちにできることを始め
よう」を合い言葉に、積極的
に取り組んでいる最中だ。

将来の町の姿を見据えて
「今」から動き出す
まちづくりは時間がかかる
1年、2年で結果が見える活
動もないわけではないが、た
いてい5年、10年、場合に
よってはそれ以上かかること
もあるだろう。それだけに地
道な努力の結晶ともいえる。
寺本所長は検討会の討論の
中で、まちづくりについて次
のように語っている。
「何かの取り組みをしようと
して、実践してすぐに結果が見
えるのなら、みんな既にやっ
ているはず。人口が減り続け
ている本町にあつて、例えば

結果が10年後に見える取り組
みならば、今から始めないと
いけない。ようは若い人、子
どもたちに10年後、誇りを
持つて『この町に住んでいな
さい』と言つてあげられるか
どうかなんです。考えるだけ
じゃない。今こそ、動き出す
ことが必要なんです」。
当然のことながら、まちづ
くりは「思い」だけでは成り
立たない。外からの視点も大
切だし、ニーズを知ることが
重要だ。そういった意味でこ
の検討会は、町外から転勤し
てきたメンバーが多く、外か
らの視点には事欠かない。
「寸又峡を初めて訪れ、案内

▶本町・井川地区活性化検討チームが「大井川流域の交流人口増加」を図りたいという趣旨のもと、流域に点在するダムに着目。訪れた人に配布する「ダムカード」を企画・製作した。国交省の規格に準じたダムカードを民間が作成するのは初めての試み。いずれは、地元商店街などで配布するなどして、地域活性化の一助としたい考え。関係機関と折衝を続けている。



本町・井川地区活性化検討チーム
福代仁さん(島田市)
グラウンドゴルフで町おこしをするため、地域のスポーツ団体の調査、アクセス・宿の調査などをしました。この活動を通して、地域の資源について改めて学ぶ機会にもなりました。今後、大会実現に向けて活動を続けています。この取り組みが、地域活性化の役に立てればと思います。

